

緑の相談所だより

No. 114

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所

住 所 旭川市神楽岡公園内 電話 0166-65-5553

発行:平成 20 年 10 月 1 日

講習会のご案内



「洋ラン講座」

(冬に向かっての育て方)

と き 平成 20 年 10 月 19 日(日)

PM 1:30~3:30 定員 50 名

講 師 旭川蘭友会 顧 問 笠原 幸三さん

「庭木の冬囲い」

(実習あり)

と き 平成 20 年 10 月 25 日(土)

PM 1:30~3:30 定員 20 名

講 師 旭川市公園緑地協会 職員

場 所 永山中央公園管理棟

「庭木の冬囲い」

(実習あり)

と き 平成 20 年 10 月 26 日(日)

PM 1:30~3:30 定員 30 名

講 師 旭川市公園緑地協会 職員

「楽しい家庭園芸」

(腐葉土を作ろう)

と き 平成 20 年 11 月 1 日(土)

PM 1:30~3:30 定員 30 名

講 師 旭川緑の相談所 相談員 芝山 一雄

「果樹の剪定」

(おいしいブドウを作ろう)

と き 平成 20 年 11 月 2 日(日)

PM 1:30~3:30 定員 50 名

講 師 ふじくらますも果樹園 増茂 聡さん

「クリスマスからお正月の寄せ植え」

(実習あり)

と き 平成 20 年 12 月 14 日(日)教材費 2,000 円

PM 1:30~3:00 定員 20 名

講 師 フラワーマスター 山本 裕美さん

展示会のご案内

「身近な帰化植物と環境展」

「公園絵画展」

「木の実・草の実写真展」

と き 10 月 1 日(水)~26 日(日) 10 月 28 日(火)~11 月 3 日(月) 11 月 5 日(水)~30 日(日)

出 品 旭川帰化植物研究会

10月の園芸作業

1 草花・鉢物・球根類

- ❖ 低温に耐えるシクラメン、クンシランなどは霜よけ下に置き、できるだけ戸外で管理しましょう。フクジュソウなどの宿根草の株分けと植え替えを上旬までに行いましょう。カンナ、グラジオラスなど春植え球根類を掘上げます。特にアマリリスは葉が枯れてから室内に入れ水やりをせず乾燥させて凍結しない場所で管理しましょう。

2 花木類・庭木類・果樹類

- ❖ 低温に耐えるクチナシ、アザレアなどは霜よけ下で管理する。特にアザレアは乾燥させないように水やりに注意しましょう。モミジ、ブドウは落葉が終わってから剪定し春の剪定はできないので注意しましょう。

3 多肉植物・サボテン類

- ❖ アロエは日の当たるあたたかい室内の窓辺に置き、水やりは控えます。カネノナルキは無暖房の室内の日当たりの良い場所に置いて水やりは控えます。イースター（復活祭）カクタスの開花は4～5月です。それまで水やりを控え肥料は中止しましょう。サボテン類の親株は下旬ごろからは水やりや肥料は中止し休眠させましょう。

4 洋ラン類

- ❖ カトレア： 秋から冬に開花する品種はシースが出るので支柱を立て誘引する。肥料は中止する。開花株はなるべく低温に慣らすように管理する。
- ❖ シンビジウム、デンドロビウム： 成長が進んだ親株は日当たりのよい霜よけの下で管理する。特に、デンドロビウムはバルブがアメ色になってから室内に入れ、13度以下の寒さに必ず2週間以上の低温に当て花芽をつけましょう。

11月の園芸作業

1 鉢物類

- ❖ クンシランは花茎の内側に左右5～6枚ずつ出ている花茎がすでに地際の短い茎の中にできているので、8～10度ほどの低温で管理しましょう。
- ❖ サイネリア・カルセオラリヤ・プリムラ類、シクラメンなど低温で育てている場合でも乾いたら朝方10時ごろにたっぷり水やりをし、肥料は置肥月1回と1000倍の液肥を7～10日に1回与えましょう。

2 花木類・庭木類

- ❖ アザレアは花が咲いた鉢は暖かい室内で水と肥料を与え新梢を伸ばす。ハイビスカスは水と肥料が不足すると落葉が目立つので注意しましょう。採種したツツジ、シャクナゲなどは室内、温室でまきましよう。

3 多肉植物・サボテン類

- ❖ サボテンは必要な場合は植え替えや株分けができます。また、伸びすぎた茎を途中から切り(胴切り)取り、挿し木する。クジャクサボテンは無暖房の室内で、水やりは控えめにし肥料は中止する。サンセベリアをはじめ温度が低い部屋の場合は水やりは控えましょう。

4 洋ラン類

- ❖ カトレアはシースの伸長が目立つ株は毎日水やりする。蕾の膨らみが目立つ株や開花した株はシンジウムを中止する。シンビジウムの花芽がつきそうな株は高温は避ける。無暖房の日当たりの良い窓辺に置く。デンドロビウムはシンビジウムと同じで水やりは控え、温度差が目立ち室温が高いと花芽がつかず高芽(葉芽)になり新芽が伸びてくるので注意しましょう。

❖ 展示会の初日は準備の為ご観覧は午後からになります。

❖ 10月～3月まで毎週月曜日は休館です。(祝日の場合は翌日)

植物の病害虫

その3 「べと病」

べと病は露菌病とも呼ばれツユカビ科の数種の属の菌によって起こる病害の総称です。

わが国で農作物に寄生して被害をもたらすべと病菌には5属(下記の絵)あります。これらは生きた植物でのみ生活ができ、枯死したり、腐敗したりした植物では生活できません、野菜や畑作物、果樹、花などに寄生してべと病を生じます。

○病気の症状(キュウリ)

葉のみに発生します。

本葉では、はじめ淡黄色で境界の不明瞭な小さい斑点を生じます。

その後に葉脈に区切られた黄褐色の角形の病斑となります。

発病が激しいと、葉全体が黄褐変し、葉の縁から巻き上がって枯死します。

多湿条件では葉の裏にカビを生じ、暗灰色にみえます。

○どのような条件で発生するか

発病した葉が残された畑で発病が多くなります。

茎や葉が繁茂し、風通しの悪い畑で発生が助長されます。

病斑部に形成された胞子が空気中に飛散してまん延します。

発生には多湿が好適で、適温は20~24℃です。

温暖多雨な年、梅雨が長びく年には多発します。

○防 除

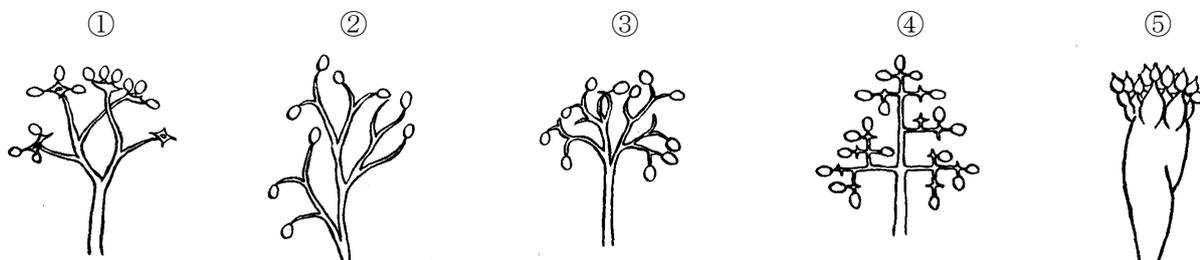
発病した株はすぐに抜き取り処分しましょう。

密植を避け、風通し、日当たりをよくしましょう。

多肥栽培を避け、過繁茂とならないようにしましょう。

ハウス栽培では、高湿にならないように灌水や窓の開閉に注意しましょう。

べと病菌を顕微鏡で観察すると下記のような形をしています



- ① レタスべと病菌
- ② ハクサイべと病菌(他に、アブラナ科野菜、ネギ類、ハウレンソウ、シュンギク等にべと病を生じます)
- ③ キュウリべと病菌(他に、メロンやカボチャ等のウリ類にべと病を生じます)
- ④ ミツバべと病菌(他に、ハマボウフウにべと病を生じます)
- ⑤ トウキビべと病菌

ポインセチア

トウダイグサ科 ユーホルビア属

クリスマスには欠かせないメキシコ原産の花木です。花卉のように見える部分は苞葉で花は中心の黄色い部分です。日当たりと水はけのよい用土を好み、越冬は5度以上が必要な植物です。苞葉は短日条件下で色づくため、12月上旬までに色づかせたい場合は、10月上旬ころから夕方5時から翌朝8時の間、ダンボール箱などで強制的に暗くしましょう。



シャコバサボテン



サボテン科 シュルンベルゲラ属
別 名 クリスマスカクタス

別名の通り、クリスマスの頃ピンクや桃紫色の細長い花を茎節の先いっぱいにつけます。短日で開花する植物のため、夕方5時から朝8時までダンボールなどで遮光すると、50～60日で花芽が出ます。なお、蕾の時は置く場所を変えると蕾が落ちますので注意しましょう。

展示室の植物たち（21）

パパイヤ

パパイヤ科 パパイヤ属

熱帯アメリカ原産の草本性の常緑小高木、雌雄異株ですが、両性花をつけるものがあり、沖縄諸島の一部で栽培されています。成長が早く温度管理が適当であれば種をまいてから3年もすると結実します。濃緑色の果皮は成熟すると鮮やかな濃黄色になり、果肉は橙黄色や淡紅色で柔らかく、多汁で独特の香りがあり、生食がおいしく、また肉を葉で包んで煮たり、果実といっしょに煮ると柔らかくなります。

